

社会的自立と就労を見据えた特別支援学校中学部 におけるキャリア教育について

— 授業実践『生活単元学習「会社で働こう」(15時間)』を通して —

松田信夫・宮川百合子*

Career Education for Junior High School Students with Mental Retardation

MATSUDA Nobuo, MIYAKAWA Yuriko

(Received September 29, 2017)

1 研究の目的

中央教育審議会(2011)は、「社会的・職業的自立」や「学校から社会・職業への円滑な移行」を目指すために、発達段階に即し、段階を追って組織的・体系的にキャリア教育を行うことの重要性を述べている。

特別支援学校において、中学部は、小学部(小学校)で積み上げてきた社会性、自主性・自律性、意欲、関心等の力を更に伸ばし、変化に対応できる力にするとともに、体験を通じて職業観や勤労観をはじめとする価値観の形成・確立をする上で重要な時期である。また、自己の職業適性や将来設計を具体的に考え、自己実現に向けた進路選択をする高等部に「つなぐ」という面からも大きな意味をもつ時期である。

山口県立宇部総合支援学校(以下「本校」とする)は、知的障害のある児童生徒を中心的対象とした特別支援学校である。中学部卒業後ほとんどの生徒が本校高等部に進学しており、生徒指導上の課題や学習上の課題等に関してはその引継ぎがなされ、連携しやすい環境である。しかし、キャリア教育・進路指導に関する連携については今後の課題とされてきた。

そこで本研究では、将来の社会的自立と就労に向けて、中学部段階から何を積み重ね、どのような力を育てなければならないのかを考察すること、また、その必要な力を身に付けるための具体的な指導の在り方を検討することを通し、中学部におけるキャリア教育について考察することを目的とした。

2 研究テーマ

中央教育審議会(前出)は、キャリア教育を「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成する教育」ととらえ、「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素の構造を図1のように示した。同時に、今後のキャリア教育の中心課題として、図中の「基礎的・汎用的能力」を確実に育成し、実践的・体験的な活動を充実させることを提言した。この能力の構成要素として、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」があり、これらの能力の育成には、他者と協力・協働する姿勢、自己の役割の理解、肯定的な自己理解、働くことの意義の理解、将来設計の力等の育成が鍵となると考えられる(表

とりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成する教育」ととらえ、「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素の構造を図1のように示した。同時に、今後のキャリア教育の中心課題として、図中の「基礎的・汎用的能力」を確実に育成し、実践的・体験的な活動を充実させることを提言した。この能力の構成要素として、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」があり、これらの能力の育成には、他者と協力・協働する姿勢、自己の役割の理解、肯定的な自己理解、働くことの意義の理解、将来設計の力等の育成が鍵となると考えられる(表

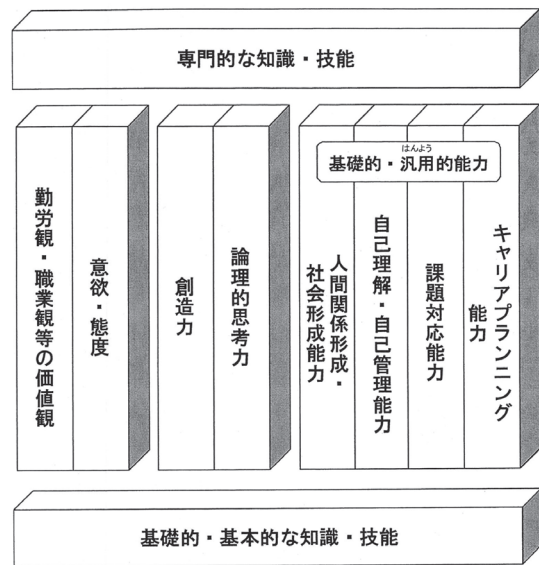


図1 「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素(中央教育審議会、2011)

* 山口県立宇部総合支援学校

表1 「基礎的・汎用的能力」の具体

	具体
人間関係形成・社会形成能力	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができることとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力
自己理解・自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力
課題対応能力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力
キャリアプランニング能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連性を踏まえて「働く」ことを位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

1)。なお、ここでいう「社会的自立」とは、一般就労を中心とした職業的自立のみをめざしたのではなく、より広義の自立をめざしたものであり、「基盤となる」とは、例えば就労のための知識・技能等、特定の領域のものを意味するのではなく、広義の自立のための基盤・土台となる能力や態度を意味するものであることに留意する必要がある。

また森脇（2014）は、勤務校の高等部生徒に「理解力やスキル面は高いが、社会性の育ちや意欲・態度面などに課題の多い生徒が増えてきている」ことを述べ、地域協働活動の体験を通し、「自尊感情や自己肯定感」の育成を目指す教育の重要性を指摘している。また上岡（2013）は、自己有能感を高めるには、「自分の力で役割を果たす」「周りから認められる体験をする」「共有感や共感性を重視する」という3つの指導が重要であると述べている。

これらのことから、自己有用感、自己肯定感を高める体験的な活動を通し、働く意義を理解し、働く意欲を高めていくことが、中学部段階では必要であると考えた。

3 研究の方法

(1) 生徒の実態把握

対象は平成27年度の本校中学部2年生（知的単一障害）11名であり、働く意欲や態度・心構えを育てていくための生活単元学習の指導を実施した。

実態把握のため、授業前に、2種類のアンケートを実施した。表2は岩本（2015）が使用したアンケートを一部変更した内容であり、担任と対象生徒に実施した。表3は仕事についての自由記述式アンケートで、生徒の

みに実施した。また、これらのアンケートを授業後にも行い、生徒の変容の有無を検討した。

対象生徒11名は、働くことに対して抵抗感はないものの、経験不足や自尊感情の低さから、自信のないことには積極的に取り組もうとしない傾向がある。

表2 アンケート結果（担任＋生徒）

自分をふりかえろう		はい	まあまあ	あまり	いいえ
①	自分から役割や仕事を負つたり、まわりの人と協力したりしながら生活していますか。	担任 9% 生徒 64%	36% 0	55% 36%	0 0
②	どうしてはたらくか、わかりますか。	担任 0 生徒 27%	55% 46%	18% 0	27% 27%
③	いま学校で勉強していることが、将来大入になって役に立つと思えますか。	担任 0 生徒 55%	82% 36%	18% 9%	0 0
④	いろいろな種類の仕事があることを知っていますか。	担任 0 生徒 27%	27% 19%	55% 27%	18% 27%
⑤	学校を卒業したあとに、やりたい仕事はありますか。	担任 19% 生徒 55%	45% 0	36% 45%	0 0
⑥	将来仕事をするために、いま何をがんばればよいか、わかりますか。	担任 0 生徒 36%	36% 19%	64% 45%	0 0
⑦	自分の好きなことや得意なことがわかりますか。	担任 0 生徒 45%	55% 19%	45% 36%	0 0
⑧	学校を卒業したあとの仕事は自分で決めたいですか。	担任 45% 生徒 72%	36% 19%	10% 9%	9% 0
⑨	自分にある仕事、あわない仕事わかりますか。	担任 0 生徒 27%	27% 46%	73% 18%	0 9%
⑩	自分の将来や目標に向けて、生活や勉強にしっかりけんめい取り組んでいますか。	担任 0 生徒 64%	55% 27%	45% 9%	0 0
⑪	毎日ふりかえりをして、生活や勉強の仕方をよくしようとしていますか。	担任 0 生徒 27%	0 27%	55% 19%	45% 27%

表3 自由記述式アンケート結果（生徒）

2年（ ）組

名前（ ）

仕事についての質問に答えてください。

1. あなたの知っている仕事の種類をできるだけたくさん書いてください。

【生徒の答え】
スーパー店員（4）（マックスバリュースーパー・サンパーク・アルク・店員）、コンビニ店員（2）、ケーキ屋店員（2）、警察官（2）、医者（2）、看護士（2）、ガソリンスタンド（1）、居酒屋（1）、豆腐屋（1）教師（1）消防署（1）、ユーチューバー（1）、清掃員（1）、科学者（1）、研究員（1）、占い師（1）、整備士（1）、宇宙飛行士（1）、料理人（1）、大工（1）
→ 日常生活で身近に見られる仕事やテレビで見たことのある仕事が多い。本校の卒業生がしている職種についてはほとんど知らない。

1. いま、あなたがやりたい職業はなんですか。くわしく書いてください。

【生徒の答え】
動物園飼育員、ペットショップ店員 ユーチューブ編集、木工関係、木工大工
→ 身近で自分の生活にかかわりのある職業（職の仕事やいつも利用する等）
宇宙飛行士、医者、警察、先生
→ 現実的にできるものからかけ離れている職業
重たいものを運ぶ、飲食店の正社員、レストランの厨房
→ 自分の適性を日頃から保護者と話し、考えていると思われる職業

2. 大入になってはたらくためには、どんなことを身に付けておくとよいと思いますか。

【生徒の答え】
漢字の勉強（1）、数学の勉強（1）、英語（2）、字を丁寧に書く、
→ 漢字と日頃の教科学習が働くために必要なものだと思っている。
言葉遣い、態度、清潔、正確さ、丁寧さ、素早さ、記憶力、判断力、金銭感覚、社会性、ひらめき（1人の生徒の複数回答）礼儀と作法、確認と報告の仕方、体力
→ 働く上で必要な基本行動や働く力をなんとなく言葉で理解している。
よくわからない（3）
→ 聞かれていることの意味が理解できていない。

表4 生活単元学習「会社で働こう」（15時間）の単元計画

会 社 で 働 こ う			
単元の目標	○体験活動（窓ふき）を通し、働く心構えを身に付け、働く意欲を高める。 ○先輩の姿から、将来の自分の姿をイメージする。 ○役割を自覚し、実行することで、やりがいや達成感を味わう体験をする。 ○先輩や友だちとのかかわりや学校外での社会体験から人との適切なかかわり方を学ぶとともに、支え合い、学び合う力を培う。		
	学 習 活 動	学 習 内 容	時間
9月	いろいろな仕事があることを知ろう（中学部）	○中1の時の、「封筒づくりをしよう」の単元を振り返り、「働く」体験をしたことを思い出す。 ○「産業現場等における実習（高2）」のビデオを視聴し、様々な職種があることを知り、将来に向けて、自分に合った、そして自分にできる仕事を選択していく必要があることを理解する。 ○進路決定に向けて、働く経験を積み重ねていくことが大切であることを知る。	1
10月	先輩たちから仕事を学ぼう①（中・高等部）	○高等部産業科が行っている「企業における地域清掃活動」や「産業現場等における実習」の体験談を聞く。 ○高等部産業科の生徒（3年生）から、「働く」心構えや「働く」喜び等の話を聞く。	1
	先輩たちから仕事を学ぼう②（中・高等部）	○産業科の生徒（2年生）を指導者に、グループに分かれて、役割分担をしながら、ビルメンテナンス（窓ふき）活動に取り組む。	2
	窓ふきの練習に取り組もう（中学部）	○先輩たちのアドバイスを思い出しながら、マニュアルどおりに窓ふきの経験を積む。	5
11月	プレ会社体験をしよう（活動は中学部のみ）（高等部は参観）	○今までの練習を踏まえ、寄宿舎の窓ふき体験をし、先輩たちからのアンケートにより評価を受ける。	1
	会社での窓清掃に向けて（中学部）	○寄宿舎の窓ふき体験を振り返る。 ○先輩たちの評価から、課題を見出し、会社での体験に向けて練習に取り組む。	2
12月	会社で働こう～J園窓ふき～【於；介護老人保健施設J園】（中・高等部）	○企業における地域清掃活動に高等部産業科生徒と一緒に参加する。	2
	体験を振り返ろう（中学部）	○会社での窓清掃を振り返り、感想を話し合うことで、やり遂げた充実感や達成感を味わうようにする。	1

表2のアンケート結果から、全体の傾向として、生徒は、肯定的な自己理解、働くことの意義の理解、将来設計の力等の基礎的・汎用的能力が比較的弱いことがみてとれる。進路として高等部進学ということだけを念頭におき、将来どのように働き、生活していくのかはあまりイメージできていないと考えられる。また、自分の仕事は自分で決めたいと思っはいるものの、現実的になりたい職業や自分の適性、働くために必要とされる力については理解が不十分であると考えられる。なお、自由記述式アンケートの結果からの考察を、表3内に太字で記載した。

（2）単元の全体構想と計画

中央教育審議会（前出）が指摘する「基礎的・汎用的能力」の育成を目指し、自己有用感、自己肯定感を高め

させることを目的に、生活単元学習「会社で働こう」（15時間）を計画した。単元計画を表4に示す。

本単元では、高等部産業科の生徒に計画されていた講義型授業や「ビルメンテナンス」（窓ふき）の体験型授業を導入し、学部・年齢の異なる生徒同士のかかわりを通して働く意義や心構え、意欲等を高めさせたいと考えた。また、同産業科の生徒による地域清掃活動（産業科職業実践「ビルメンテナンス」の授業で取り組んでいる地域の清掃活動）にともに参加させ、実際の事業所（介護老人保健施設）での活動を体験させることで、やりがいや達成感、自己有用感を味わわせ、将来「働きたい・働き続けたい」という意欲を高めさせたいと考えた。

また、中央教育審議会（前出）は、キャリア教育における学習状況の振り返りの重要性についても指摘している。そこで、今回の実践では、一人ひとりの生徒のキャ

リア発達を促すために、授業で用いる学習プリント、感想文、礼状等を順次ファイリングさせる学習ポートフォリオファイルを作成・活用することとした。

4 授業実践『生活単元学習「会社で働こう」』（15時間）

（1）「いろいろな仕事があることを知ろう（中学部）」

（1 / 15時間）

①授業の概要

本授業では、高等部卒業までの現場実習の流れを、プレゼンテーションソフトを用いて示し、高等部産業科2年生の「産業現場等における実習」の様子をビデオで実際に視聴させ、その実習場面の写真を掲示することで生徒が興味・関心をもてるようにした。最後に本単元の内容を板書を通して説明し（写真1）、今後の学習活動に見通しがもてるよう配慮した。

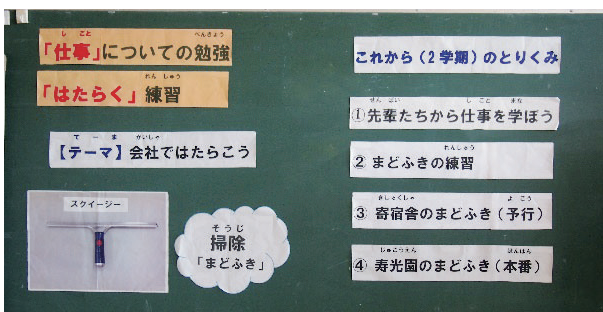


写真1 本単元の内容についての板書

②授業の結果と分析

事前アンケートでは、知っている仕事の種類として、本校の卒業生が従事している職種についてはほとんど知らないという結果であった。しかし、実習の様子を収録したビデオ視聴後、教師の質問に対し、すべての生徒が多様な職種をあげることができた。また、授業後の感想には、「挨拶や判断力が必要だということがわかった」「長時間立ちっぱなしで仕事をしていた」「静かに真剣に働いていた」「丁寧に集中して仕事をしていた」等、働く上で必要な姿勢や態度を、先輩の働く姿から学ぶことができていた。また、先輩の働く姿と自分の姿を重ね、「自分たちもできるように頑張らないといけない」という積極的なイメージをもった生徒もあった。

これらのことから、「働くこと」へのイメージを抱かせ、「今後の活動」への意欲付けを行う上で、本時は有効であったと考える。

（2）「先輩達から仕事を学ぼう①（中学部・高等部）」

（2 / 15時間）

①授業の概要

本授業は、本校において初めての試みである中学部・高等部合同（以下、「中高合同」と略）の学習である。

高等部産業科3年生3名、産業科主任教員が中学部の授業に入り、同産業科生徒が実際に行っている「産業現場等における実習」や「地域清掃活動」の体験談を聞くことにより、中学部生徒が「働く姿勢や態度・心構え」を先輩から学ぶという内容である（写真2）。



写真2 高等部産業科生徒の説明を聞く中学部生徒

中学部生徒にとってのねらいは、働く上で必要な力や姿勢、態度等を先輩の話や姿から学ぶという点にあり、高等部産業科生徒にとってのねらいは、今までの経験を伝えることで自分自身の活動を振り返り、仕事に対する姿勢や意義を再認識する点にあった。

同産業科生徒は、事前に学習プリントに自分の伝えたいことをまとめ、高等部教員の指導により発表の準備を行い、授業に臨んだ。

②授業の結果と分析

高等部産業科生徒は、写真や板書プレートを提示しながら、「産業現場等における実習」と「地域清掃活動」の様子を具体的に説明し、「働く上で大切なこと」、「働くために必要な力」、「中学部の時に身に付けておいた方がよいこと」、「うれしかったこと・やりがいを感じたこと」、「清掃するときの心構え」、「清掃するときの注意点」等を自分の経験に基づいて話した。また、説明の難しい部分に関しては、産業科主任教員による補足説明が行われた（写真3）。

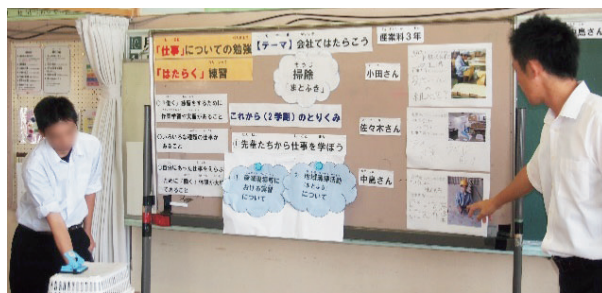


写真3 産業科主任教員（右）による補足説明

授業後の中学部生徒の感想には、「説明の仕方が上手だった」「（発表のときに）口が大きくあいていて、言

葉がはっきりしていた」「窓ふきをしている様子を見たときも一生懸命ですごいと思った」、さらには、「自分も将来に向けて先輩のようにがんばりたい」と、先輩への「憧れ」に近い感情を抱き始めたことが伺われた。また、「将来、社会にでて働くときは、あいさつや心構えが大切だということがわかった」「ずっと立ちっぱなしで仕事をする体力が必要」などといった、働く上で大切なことや必要な力・姿勢等を、自分の将来と重ねて考える生徒も多く見られた。また、授業後の高等部産業科生徒の感想には、「発表はとても緊張したが、自分たちがやってきた実習や地域清掃活動を後輩に伝えられてよかった」「自分が働くときに大切なことを振り返ることができたのがよかった」など、今回の発表を通し、自身の仕事に対する姿勢や意義を再認識できたことが伺われた。

（３）「先輩たちから仕事を学ぼう②（中学部・高等部）」 （３・４／１５時間）

①授業の概要

本授業は、実際に窓ふきの手順を高等部産業科生徒から学ぶという内容であり、同産業科２年生３名と産業科職業実践「ビルメンテナンス」を担当している高等部教員と合同で行った。中学部生徒は、①窓ふきの手順を覚えるという技能面を学ぶこと、②先輩とともに働くことで、働く姿勢や態度を学ぶということ、以上の２点をねらいとした。高等部産業科生徒は、①前回の合同授業同様、後輩に仕事を教えることで、自分自身の活動を振り返り、仕事に対する姿勢や意義を再認識すること、②生徒集団の中でリーダーシップをとる活動を通し、相手の身になって考える力を身に付けること、以上の２点をねらいとした。

授業では、高等部教員が、窓ふきを行うにあたっての心構えや器具の扱い方、手順、注意点等を、高等部産業科生徒による実演を交えながら、説明した。その後、中学部生徒は３グループに分かれ、同産業科生徒が一人ずつ指導者として各グループに入り、道具の準備、手順、挨拶や報告の仕方等を教えた（写真４）。



写真4 道具の準備について中学部生徒に教える
高等部産業科生徒（右の青服）

②授業の結果と分析

高等部産業科生徒は、中学部生徒の理解度に応じて、手を添えて一緒に活動したり（写真５）、動きがわかるように隣のガラスを使い、タイミングを合わせて動きを伝えたりする等、相手の立場に立って自分で判断し、わかりやすい教え方を工夫する様子が見られた。また、丁寧な言葉遣いで、穏やかに、そして根気強く指示やアドバイスをしていた。仕事の手順を説明するときには、「はじめに」「次に」「最後に」等、説明に必要な言語を使用したり、聞き手を意識して指さしをしながら説明をしたりする生徒も見られた。授業後の感想では、「人に教えるのは難しかったが、真剣に聞いて窓ふきを一生懸命してくれてうれしかった」など自己有用感を感じたことが伺われた。また、中学部生徒に対して、今回教えることを経験することにより、挨拶や返事をされる側の思いを客観的に捉えることができ、今までの自分自身の活動を振り返り、仕事に対する態度や意義を再認識したとする感想も含まれていた。



写真5 手を添えて教える高等部産業科生徒

中学部生徒は、初めての窓ふき活動ということで緊張感もあったが、高等部産業科生徒からの優しい言葉かけや丁寧な言葉遣い、根気強く繰り返しわかるまで行ってくれる説明等により、集中力が途絶えることなく、長時間活動に取り組むことができた。授業後の感想には、「先輩のお手本はとてもきれいだったのすごい」「説明の仕方が上手で立派」「優しく丁寧に教えてくださったのでやり方がわかり、上手になって感謝している」等、同産業科生徒への憧れの気持ちを抱いたことがわかる。また、授業後、「窓がきれいにふけてうれしかった」という仕事に対するやりがい・達成感や、「先輩のようにふけるようになりたい」という目標設定をすること等が生徒の会話にみられ、本時のねらいにはなかった成果があった。この授業を通し、実際に体験すること、そして、手本となる先輩の姿を自分の目で見ることの有効性が示されたと考える。

(4)「窓ふきの練習に取り組もう(中学部)」(5・6・7・8・9/15時間)

①授業の概要

本授業では、中学部のみで窓ふきの練習を行った。1時間目の授業は座学を行い、これまでの合同授業において高等部産業科生徒から学んだ内容を振り返ることをねらいとし、窓ふきにおける心構えやルールの確認を教師のロールプレイによって行った。ルールについては、「挨拶」「返事」「報告」「身だしなみ」「言葉づかい」「時間」の六つの観点を示したが、本單元においては、中でも特に、「挨拶」(自分から大きな声でする)、「返事」(「はい」と大きな声で相手に伝わるようにする)、「報告」(わからないときはそのままにせず、聞く)の3点にポイントを絞り、重点的に守るべきルールとした。2時間目より実際に窓ふきの練習にスムーズに取りかかれるように、ロールプレイによるルール確認を行った後、班編制や役割分担、活動の進め方、服装の確認、道具の準備等の練習等を行った。

3つの班に分け、さらに、グループ内で2人組(以下「バディ」とする)をつくった。バディについては、生徒の実態をもとに、互いに協力し、責任をもって自分の役割を行い、互いに学び合える生徒同士となるように担当教員で協議し、編制を行った。

また、主体的に生徒たちが活動に取り組めるように、準備物チェック表(表5)や窓ふき手順表(表6)を作成した。準備物チェック表は活動前の道具の準備の際に用い、班員で協力し、道具をそろえ、過不足を自分たちでチェックできるようにした。また、他者と協力する態度を養うために、バディ単位で交互に窓ふき作業を行わせ、互いに協力し合い、教え合うことができたようにした。

窓ふきの練習は1時間単位(45分間)で4回実施し、毎回作業日誌(表7)への記入を行った。作業日誌には、活動前に記入する班の目標と自分の目標の欄や、活動後に記入する自己評価表のチェック欄、記述式の反省・感想欄、そして、教師からのコメント欄を設けた。自己評価表のチェック内容は、高等部の作業学習で使用されている評価項目を参考とし、本単元のねらいを考慮して作成した。また、書字に課題がある生徒にも振り返りを可能にするため、○・△・×でチェックを行える様式とした。作業日誌をもとに、各班で活動後に反省会を行い、目標の達成度やバディの良かった点、次回の課題等を発表し合う時間を設けた。司会・進行や班の課題等の発表は班長が行うこととし、リーダーとしての自覚をもてるようにした。

②授業の結果と分析

活動のルールの確認についての授業では、前述した六

表5 準備物チェック表


準備物			
【班の準備物】			
道具	写真	枚数	チェック
		2	
	バケツ		
2セット		2	
	モイスマーリンド		
		2	
	スクイージー		
		2	
青色ぞうきん			
		2	
洗剤スプレー			
【個人の準備物】			
	緑色ぞうきん	1まい	
	白色ぞうきん	1まい	
	ゴムベルト	1つ	

表6 窓ふき手順表











窓ふき手順表			
1		洗剤スプレーを窓ガラスに吹きつける (1おし・4か所)	
2		青色のぞうきんで下から上へカを入れてふく (すみまでていねいにふく)	
3		モイスマーリンドで窓ガラスに水気をつける	
4		①緑色のぞうきんを左手にもち、スクイージーを使って水気を上から下にかきとる	
		②1回ごとにブレード(黒いゴムの部分)の水を緑色のぞうきんでふく	
5		白のぞうきんを右手にもち、窓わく・下に落ちた水をふきとる	

表7 作業日誌の様式

が 月	に 日 ()	よう び 曜日	てん き 天気
きょう 今日の	ぐるーぷもくひょう グループ目標		
きょう 今日の	じぶんもくひょう 自分の目標		
	きょうかつどう 今日の活動のふりかえり		○・△・×
1	あいさつや言葉づかいが、ただ		
2	時間に遅れずに、しゅうごう		
3	時間いっぱい丁寧に作業をすることができましたか。		
4	自分の仕事を責任もってできましたか。		
5	バディと協力して、作業をすることができましたか。		
6	準備や片づけを進んでみんなと協力してできましたか。		
【反省・感想】			
【先生から】			

つの視点において意図的に誤った言動をした教員のロールプレイを見たあと、「挨拶が間違っている。挨拶は自分から大きな声でしないといけない」「わからないのに適当に答えている。わからないときは『わかりません。教えてください』と言わないといけない」等、誤りを指摘するとともに、どのようにすればよいのかということまで具体的に考えることができた。また、その発表は、前時・前々時の中高合同授業において、高等部産業科生徒からの説明や、活動する中で話題に出てきた内容をあげていたことから、「先輩から学ぶ」ことの有効性が明確になった。実際の窓ふきの練習においては、準備物チェック表を見ながら自分たちで協力して道具をそろえ、服装が整っているかどうか互いに点検できるようになっていった。活動当初は、班長が準備物や服装の確認などを主に担っていたが、活動が進むにつれ、他の生徒も主体的に確認し合う姿が見られるようになった。当初、窓ふきを始めるまでに15分かかっていたのが、最終的にはどの班も5分以内で準備ができるようになった。準備物チェック表はどの生徒に対しても視覚的にわかりやすく、効果的であったと考える。

また、準備ができた班から班長が教師に報告する方法をとったが、報告の前に脱帽したり、一礼をしたりする等、中高合同授業の前には見られなかった姿、つまり、先輩の姿から学んだ内容を実際の場面で生かそうとする主体的な動きが、班長に見られるようになった。適

切な言動に対しては、教師が全体の前で具体的に評価することで、他の生徒にも徐々に浸透していった。バディとの窓ふき作業においても、生徒同士で「次、お願いします」「ここに拭き残しがあります」等、互いに丁寧な言葉遣いで話し、作業を協力して行う場面も増えてきた(写真6)。



写真6 バディでの窓ふきの様子

窓ふきの手順に関しては、手順表(表6)を指しながら、「次の工程は2です」という言葉かけを教師がすることで、作業行程を覚えにくい生徒も準備物がわかり、次の作業行程にスムーズに進むことができた。しかし、事前に活用方法についての指導を生徒に対して十分に実施せず、教師の裁量で用いたため、生徒が自主的に手順表を使う場面がなかなか見られなかった。手順表の活用方法については、再検討の必要のあることが明らかになった。

○・△・×で行う自己評価チェックは、書字に課題のある生徒に対しては、抵抗なく取り組めるという点では有効であった。しかし、項目の内容自体の意味が理解できず、項目全てに○をつける生徒も見られた。そこで、評価の際、教師が文章を読み上げ、内容が分かりにくい生徒には、個別に具体的な内容を例に出し、○・△・×の基準を明確にすることで、自分の活動の振り返りができるよう配慮した。

自己評価をしたのち、班ごとの少人数での反省会をもたせたことにより、目標の達成度を個別に確認したり、バディの良かった点を発表し、互いの良さを認め合ったりするなど、丁寧な振り返りの機会を用意した。そのことにより、自分自身の課題を明確にすることができ、課題としてあがった点を次の目標として設定するという生徒も一部現れた(表8)。

また、個人の振り返りだけでなく、班ごとの活動の振り返りは、ねらいの一つである「周囲との協力・協働」の意識を高めるきっかけともなった。

表8 作業日誌（指導前と指導後）

10月9日 (金) 曜日 天気 曇り	
今日の タネ二ツ目標 活動力のなかがれをほえる	
今日の 自分の目標 あいつと自分かたがたあいつ	
今日の活動のふりかえり	O・△・×
1 あいさつや言葉づかいが、正しくできましたか。	○
2 時間に遅れずに、集合できましたか。	○
3 時間いっぱい丁寧に作業をすることができましたか。	○
4 自分の仕事を責任をもってできましたか。	○
5 バディと協力して、作業をすることができましたか。	○
6 準備や片づけを誰とみんなど協力してできましたか。	○
【反省・感想】なかがれをまたおぼろろ ないでいようとは改まりました。	
【先生から】 作業はいいにできた。 返事がふかたし。声が小さくなりすぎるのできちんとできるようにしなさい。	



10月13日 (火) 曜日 天気 曇り	
今日の タネ二ツ目標 なかがれをする	
今日の 自分の目標 はいいとあいつとあいつ	
今日の活動のふりかえり	O・△・×
1 あいさつや言葉づかいが、正しくできましたか。	○
2 時間に遅れずに、集合できましたか。	○
3 時間いっぱい丁寧に作業をすることができましたか。	○
4 自分の仕事を責任をもってできましたか。	○
5 バディと協力して、作業をすることができましたか。	○
6 準備や片づけを誰とみんなど協力してできましたか。	○
【反省・感想】はいいと下きよ声いはい しつたえることができなかった	
【先生から】 そいやるのぬらう。水のはり方。よくおぼろろ。 返事はいいとあいつとあいつ。1かりと相手かたきえるうら あいつとあいつとあいつ。あいつとあいつ。	

表9 窓そうじ達成度チェック表

窓そうじ 達成度チェック表

() さん

チェック項目	評 価
①あいさつが大きな声のできる	◎ ○ △
②はっきりと返事ができる	◎ ◎ ○ △
③仕事の報告ができる	◎ ○ △
④協力してそうじをしている	◎ ○ △
⑤集中して仕事をしている	◎ ◎ ○ △
⑥ていねいにすみずみまでできている	◎ ○ △

◎・・・着光園で働く力が十分身についている
○・・・着光園で働く力が身についている
△・・・着光園で働くにはまだ不十分

アドバイス 作業が丁寧だとおぼろろ。後は手
順を間違かたがけがよいと思ひます。

(5) 「プレ会社体験をしよう (中・高等部)」 (10 / 15時間)

①授業の概要

本授業では、「プレ会社体験」と称し、本校内にある生徒用寄宿舎において、窓ふきを実施した。バディと協力しながらこれまでの窓ふきの練習の成果を発揮するとともに、自身の課題を明確にすることを目的としたものである。高等部産業科生徒に対しては、①後輩への評価を行う過程を通し、働くルールや態度、心構えを再認識する、②自分たちが伝えた内容をどれだけ相手が理解しているのかを確認することで、自らのコミュニケーション能力を見直す、以上の2点をねらいとした。評価の観点を明確にするために、窓そうじ達成度チェック表(表9)を事前に同産業科生徒に手渡し、当日はその表を用いて、自分の担当した班の中学部生徒の評価を行った。

授業終了時には、寄宿舎主任指導員から、態度面を中心とした講評と感謝の言葉、地域清掃活動に向けての激励の言葉等ももらった。また、中学部生徒は、活動後に窓そうじ達成度チェック表を用い、自己評価を行った。高等部産業科生徒も同一の達成度チェック表を用いて中学部生徒を評価した。すなわち、中学部生徒に対して、自己評価と他者評価の比較ができるようにした。

②授業の結果と分析

学校の敷地内にある寄宿舎は、中学部の生徒にとって、これまで足を踏み入れたことがなかったということもあり、生徒は「学校以外の場所である」という意識を強くもっていたため、「プレ会社体験」の場所としては適していた。また、将来の自立生活を目指した訓練の場所として寄宿舎をとらえ、施設内を知ることができたことは、今後の生活を考える機会ともなった。

授業終了後の高等部産業科生徒の感想には、「後輩は一生懸命にやっていた」「前回よりうまくなっていた」というプラスの評価もあったが、「仕事の手順を間違えていた」「水の跡が残っていた」「確認がしっかりできていなかった」「丁寧さが足りない」「教えたときに返事をしていない」など、課題となる内容をあげる生徒が非常に多かった。いつもは指導を受ける立場である同産業科生徒が、中学部生徒の働く姿を客観的に見ることで、働く態度や必要なスキル等について、具体的に再認識したことが伺われた。

窓そうじ達成度チェック表による評価は、具体性のある評価項目を挙げていることにより、チェックしやすかったという点では有効であった。しかし、評価基準に関しては、「J園で働く力が十分身についている」「J

園で働く力が身についている」「J園で働くにはまだ不十分」という基準が主観的になる可能性のある三択式だったため、生徒によっては自分自身の力量を評価の基準にしたり、評価基準が甘いと判断されるケースもあり、改善の必要のあることが明らかになった。

(6)「会社での窓清掃に向けて(中学部)」(11・12/15時間)

①授業の概要

本授業は、「プレ会社体験(寄宿舎の窓ふき)の振り返り」と「会社での窓ふき(地域清掃活動)のための事前指導」の2時間で構成した。

まず、「プレ会社体験(寄宿舎の窓ふき)の振り返り」の授業では、①中学部生徒たちが他者からのアドバイスを聞き、自分自身の活動を振り返ることにより、自身の課題を知ること、②感謝されることによって仕事に対するやりがいや喜びを実感すること、以上の2点をねらいとした。生徒の感想発表の後、寄宿舎主任指導員、高等部ビルメンテナンス担当教員、高等部産業科生徒の三者からのアドバイスを聞く場面を設定し、それらの他者評価から、自分のよかった点と努力すべき点を見出すという流れで実施した。生徒の集中力を持続させるため、三者からのアドバイスの提示の仕方を複数用意した(ビデオ上映、プレートでの提示、プリントでの提示)。前述したように、高等部産業科生徒が前時に記入した達成度チェック表は、評価基準の客観性に課題が見出されたこともあり、中学部の生徒にわかりやすくするために、チェック表をもとにした個別の学習プリントを事前に準備した。学習プリントには、よかった点、努力すべき点を具体的に教師がわかりやすい言葉で記入したものと、高等部産業科生徒が自由記述で記入した文章のコピーを載せた。この達成度チェック表は、自己評価表との比較のために授業の最後で利用し、客観的に自分の活動を振り返ることができるように、教員が個別にアドバイスをを行った。生徒が他者からのアドバイスを生かしながら、思考を深めることができるようにキーワードカードを貼り、わかりやすい板書を心掛けた(写真7)。

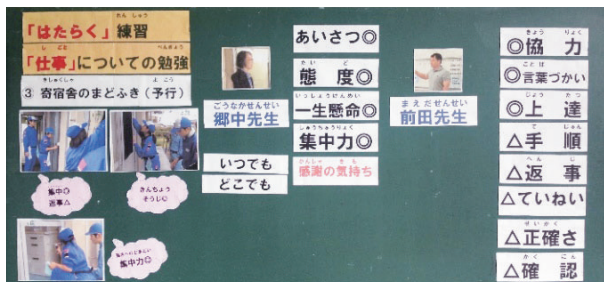


写真7 板書の内容

また、「会社での窓ふき(地域清掃活動)のための事

前指導」では、①当日の日程確認をすること、②会社で働くときの心構えと注意点の確認をすること、③本番に向けての窓ふきの手順の最終確認をすること、以上3点をねらいとした。日程の確認では、実際の会社の写真をプレゼンテーションソフトで作成し、使用した。地域清掃活動での心構えについては、中高合同授業の際に高等部産業科生徒が準備した掲示物を再度教材として活用し(写真8)、同産業科生徒からのアドバイスをもとにして話を進めた。プレ会社体験の反省を生かし、班ごとに教師が重要なポイントを付け加えながら、実際に窓ふきを実施することで、窓ふきの手順の最終確認を行った。

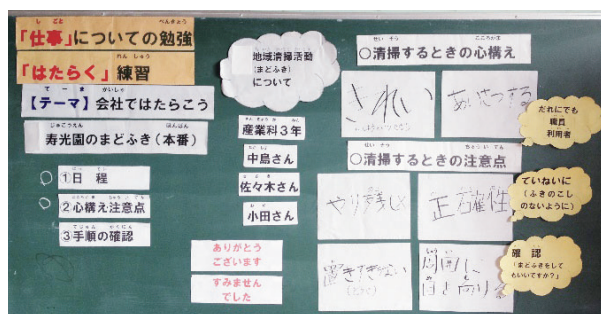


写真8 高等部産業科生徒が準備した資料を活用した板書

②授業の結果と分析

寄宿舎主任指導員からの講評では、特に生徒への感謝の気持ちに言及している場面を取り上げたところ、生徒から「うれしい」「やってよかった」など、仕事に対する喜びややりがいの言葉が語られた。働く意義、特に、人の役に立つことによるやりがいの思いや喜びは、実際の体験活動を通して習得されると考える。

また、高等部教員からのアドバイスについては、具体例や実演を交えながら説明したことで、よかった点や努力すべき点について、教師とのやり取りの中でそれぞれの生徒が考えることができた。高等部産業科生徒からの評価は、中学部生徒にとって最も関心が高く、学習プリントを渡した際は、食い入るように真剣な表情でプリント内に記載されたコメントを読む姿が見られた。

先輩のコメントを読むときや達成度チェック表と自己評価表の比較をするときには、各班の担当教員が個別に言葉かけを行った。実際に目標を十分達成していても、自己評価が低く自信のない生徒には、先輩からの他者評価を見ながら、「あなたはできないと思っているけれど、この部分はできているということがわかるね」等、自己肯定感を高めるような指導を心掛けた。逆に、自己評価が高く、自身の課題を明確に認識できにくい生徒には、先輩の評価を示しながら、「自分では十分だと思っても、他の人から見ると返事の声が小さいと思われるんだね。この課題を次に生かせるね」等、生徒が課題

に気付けるような指導を心掛けた。その結果、授業後の感想には、「自分は挨拶や返事がよくできていると思ったけれど、声が小さかったり、返事をしていなかったりしたことがわかった」「上手にできていると思っていたが、細かいところができていなかったことがわかった」等、自己評価だけでなく、他者からの評価があることで、活動の客観的な振り返りができた。また、「うまくできないと思っていたけれど、バディと協力して頑張っていると褒められて嬉しかった」「先輩は自分たちの良かったところや頑張らないといけないところをよく見ていると思った」等、自己有用感や自己肯定感が醸成されていることが伺われる感想も見られた。授業の最後には、どの生徒も、会社での窓ふきに向けて、先輩や先生方の個々のアドバイスを生かした具体的な目標を設定することができたことから、他者からの客観的な評価を丁寧に振り返ることは、今後の課題を明確にする有効な手だてとなると考えられる。

「会社での窓ふき（地域清掃活動）のための事前指導」では、中高合同授業から2か月以上経過しているにもかかわらず、キーワードを示せば、高等部産業科生徒がアドバイスした心構えや注意点の内容をほとんどの生徒が想起でき、積極的に発表することができた。これまで心構えや注意点等を担当教員全員が共通認識して指導にあたってきたこともあるが、「〇〇先輩が〇〇と言われていました」という発言が多かったことから、先輩からのアドバイスの効力は大きいといえるであろう。

また、プレ体験の反省を生かし、直前に手順を振り返る時間を設けたのは、生徒が安心感や自信をもって本番に臨めるという点で効果的であった。

（7）「会社で働こう～J園窓ふき～（中学部・高等部）」 （13・14/15時間）

①授業の概要

本授業は、高等部産業科の職業実践「ビルメンテナンス」の授業の一環である地域清掃活動に合わせ、地域にある介護老人保健施設J園での窓ふき体験（社会体験）を行った。単元としてのつながりを重視し、高等部産業科2年生との中高合同授業とした。

今回は、同産業科生徒も職業実践の一環として、清掃活動に取り組みながら（写真9）、中学部の生徒の様子を見守り、拭き残しの部位のチェックやアドバイスを行うという形態をとった。高等部担当教員が全体指導及び窓ふきに関するアドバイスを行い、中学部の教員は3グループに一人ずつ付き、安全面に配慮しながら、生徒の主體的な活動を重視しつつ適宜支援を行った。



写真9 高等部・中学部合同の清掃活動

③授業の結果と分析

中学部生徒は、初めての社会体験で緊張気味ではあったが、長時間集中して活動に取り組むことができた。また、職員や利用者に対してほとんどの生徒が挨拶することができるなど、これまで練習してきた成果が生かされる場面が見受けられた。ただし、小さい声であったり、自分から言えなかったりと、声の大きさやタイミング等にはまだ課題がみられた。寄宿舎でのプレ会社体験の反省を生かし、前日の事前指導において手順を最終確認したことにより、手順を忘れていた生徒はおらず、スムーズに窓ふきに取り組むことができた。スクイージーの水気をとる時にバケツの上で行うことや、アドバイスを受けたら返事をする等、プレ会社体験時の高等部産業科生徒からのアドバイスや高等部教員からの指導内容を意識し、活動する姿が多くの生徒に見られた。また、帰校後の生徒から、「きれいになってよかった」「先輩や先生からほめられてうれしい」「帰る時に利用者のおじいさんから『ありがとう』と言われてうれしかった」等、達成感や成就感、仕事に対するやりがいなどに関する発言があった。この心情は、これまでの体験活動の積み重ねと周囲の人々とのかかわりによって生じたものであり、体験活動なくしては習得できないものであろう。

高等部産業科生徒は、自身の作業に取り組みつつも、中学部生徒に対してさりげない配慮や言葉かけをしたり、拭き残しを的確に伝えたりする姿が見られた。また、中学部の生徒の手本となるような返事や挨拶を行うことができた。

今回の実践では、社会体験に向けて、学校→寄宿舎→会社（介護老人保健施設J園）と段階を踏んで行ったことで、生徒は着実に自信を身に付け、効果的な社会体験となったと考える。

(8) 「体験を振り返ろう(中学部)」(15/15時間)

①授業の概要

本授業は、これまでの学習を振り返り、まとめを行う内容である。①感想を伝えあったり、評価を聞いたりすることで、やり遂げた充実感や達成感を味わうこと、②働くことの意義を再確認すること、③充実感や達成感から将来「働きたい」と思えること、以上3点をねらいとした。

事前に書いた感想を、全員が発表する中で、働く意義や意欲、喜び等、みんなで共有したい内容については板書し、一人ひとりの思いや感じたことを大切に、自己有用感を高めるように心掛けた。

次に、これまで指導を受けた高等部教員から、会社での清掃活動終了時にもらったコメントをビデオ視聴した。生徒が達成感や自己有用感を実感できるよう、ビデオ視聴後にコメントの内容を生徒の言葉で引き出し、キーワードをカードでホワイトボードに提示した。さらに、J園の施設長からのコメントもビデオ視聴し、同様の手順で振り返りを実施した(写真10)。

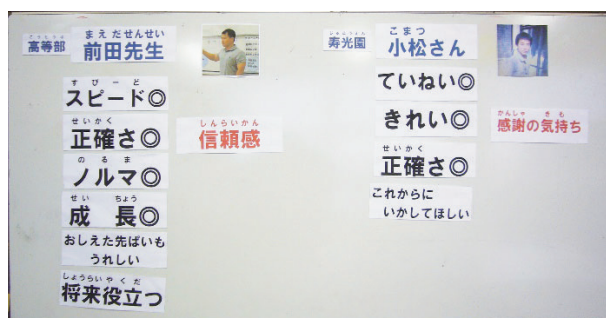


写真10 高等部教員と施設長からのコメントの表示

最後に、客観的に自分の姿を見て振り返ることができるように、J園での地域清掃活動の様子を録画した映像を生徒一人あたり30秒から1分で編集したビデオを準備した。達成感や成就感を実感し、働く意欲をもてるようにするために、ビデオを視聴しながら、がんばったところ、よかったところ、成長したところ、今後の課題などを教員から一人ひとりに伝える時間を設定した。

②授業の結果と分析

生徒は、道具の使い方、丁寧さ、正確さ等の「作業スキル」、時間や挨拶・返事・報告、言葉遣い等の「態度面や心構え」、そして、実際に社会での仕事を体験することによって実感した「働く難しさ」「長時間働くことの大変さ」「働く喜び」等、この授業で当初意図した以上の内容を感想として挙げた。実際に体験することの意義は大きいと言える。

また、高等部教員、施設長それぞれのコメントのビデオは、どの生徒も集中して視聴した。各自が体験による

感想を発表することで一人ひとりの思いを共有し、更に、他者からの客観的な評価があることで、自己の体験を確かな学びにつなげることができたと考ええる。

最後に、生徒一人ひとりの地域清掃活動の様子をビデオで視聴しながら教師のコメントを聞く場面では、満足感・達成感に満ち溢れた表情がどの生徒からも見られた。授業後に行った「将来働きたいか」という教師からの問いかけに対し、7割以上の生徒が、将来、働きたいと回答している点からも、働く意欲の向上について一定の成果が示されたと考ええる。

本時終了後に、高等部産業科生徒へ宛ててお礼のメッセージを一人ひとりが書く時間を設定した(写真11)。どの生徒も先輩に対する憧れや尊敬の念、感謝の気持ちがあふれる文章を書いていた。振り返りの中で「先輩のようにになりたい」という生徒がいたことから、中高連携による先輩からの学びの意義の大きさが見てとれる。

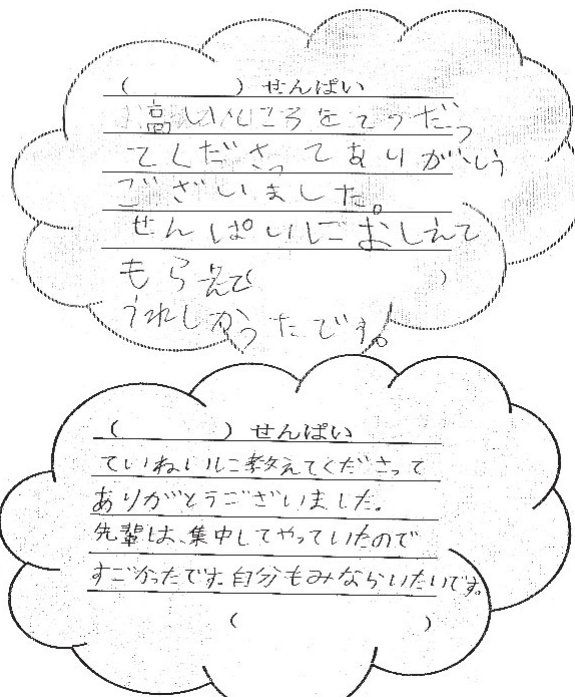


写真11 中学部生徒による高等部産業科生徒へのお礼のメッセージ

5 授業実践『生活単元学習「会社で働こう」』(15時間)の考察

(1) 実践前後の中学部生徒の自由記述式アンケート結果から

生徒の変容の有無を検討するため、実践前に行った自由記述式アンケートを実践後にも実施した。表10は対象生徒のうち、大きな変容の見られた2名の結果である。

表10 自由記述式アンケートの結果（授業実践前と授業実践後）

	質問内容	授業実践前	授業実践後
生徒A	1. あなたの知っている仕事の種類をできるだけ書いてください。	宇宙飛行士、料理人、大工	宇宙飛行士、料理人、大工、美容師、警察、自衛隊、漁師、相撲、ボクシング、ゴルフ、スーパー、そうじ
	2. いま、あなたがなりたい職業はなんですか、くわしく書いてください。	宇宙飛行士	大工
	3. 大人になってはたらくためには、どんなこと身に付けておくとよいと思いますか。	勉強	大きな声であいさつや返事ができるようにしたいです。
生徒B	1. あなたの知っている仕事の種類をできるだけ書いてください。	コンビニ、ガソリンスタンド、動物園、居酒屋	コンビニ、ガソリンスタンド、動物園、居酒屋、スーパー、バスガイド、農業
	2. いま、あなたがなりたい職業はなんですか、くわしく書いてください。	動物園でえさをあげたり、動物の子どもの世話をしてみたい。	ファストフード店でてきぱきと動いたり、作ったりしてはたらかきたいです。
	3. 大人になってはたらくためには、どんなこと身に付けておくとよいと思いますか。	英語を身に付ける。	返事を覚える（確認や報告）、仕事を覚える、助けたりしてがんばる。

実践前後を比較すると、11名中7名の生徒が、知っている職種が増えたという結果が得られた。授業前は自身の生活に身近な職種や興味・関心の高い職種しか上げられない傾向のあった生徒であったが、授業後には授業で取り扱った職種のみでなく、多くの職種を挙げていた。これは、当授業を受けたことで「仕事」についての興味・関心が高まり、マスメディアや家庭での会話等からの情報に注目するようになったことが推測される。

また、なりたい職業が具体的かつ現実的な内容へと変化している生徒が多くみられた。高等部産業科生徒とのかかわりや社会体験により、自分自身が将来どのように働いていくのかをイメージできた結果であると考えられる。また、今回行った窓ふきの仕事に従事したいと回答した生徒もおり、実体験の力は大きいことが伺われる。

将来働くために身に付けておくべき力として、11名中8名の生徒が、同産業科生徒からアドバイスを受けた内容（挨拶、返事、協力、正確性、丁寧さ等）を挙げており、「働く態度」や「基本行動」の大切さを理解していることが見てとれる。身近な先輩からの学びの力の

大きさと中高連携の有効性が明らかになったといえるであろう。

（2）実践後の中学部生徒の感想から

授業後の中学部生徒の感想を表11に示した。

表11 授業後の中学部生徒の感想

質問内容	感想 ※（ ）は回答数
1. J園での窓ふきにおいて、一番頑張れたところはどこですか。	<input type="radio"/> すみずみまで丁寧にする(3) <input type="radio"/> 正しい道具の使い方で安全に作業を進める(3) <input type="radio"/> 時間いっぱい集中して活動する(2) <input type="radio"/> 拭き残しや拭きこぼしなど周囲に気を配る(2) <input type="radio"/> どんな場所でも行う(1)
2. これまでの活動をふりかえって、先輩からどんなことを学んだと思いますか。	<input type="radio"/> 隅々まで丁寧すること(4) <input type="radio"/> 掃除のテクニック(2) <input type="radio"/> 挨拶や返事の仕方（大きな声で目を見て）(2) <input type="radio"/> はきはきとした言葉遣い(1) <input type="radio"/> 正確性(1) <input type="radio"/> 協力(1) <input type="radio"/> 人に優しく教えること(1)
3. 窓ふき（「働く練習」 「仕事についての勉強」）を終えて感じたことを書きましよう。	<input type="radio"/> うれしかった（できるようになって、感謝されて）(3) <input type="radio"/> むずかしかったけどがんばれた(3) <input type="radio"/> 長時間働くことは大変だった(2) <input type="radio"/> 先輩の挨拶や返事がかっこよかった(2) <input type="radio"/> 先輩のように自分もなりたい(1) <input type="radio"/> 協力して仕事できた(1) <input type="radio"/> 丁寧にする事の大切さ(1) <input type="radio"/> たのしかった(1) <input type="radio"/> また窓ふきをしたい(1)
4. 将来、会社や施設で働きたいと思いますか。「はい」か「いいえ」どちらかに○をして、その理由も書きましよう。	<input type="radio"/> はい(8) <input type="radio"/> お金をためる(2)、人と関われるから(2)、夢があるから(2)、先輩のようにになりたい(2)、やりがいがあるから(1) <input type="radio"/> いいえ(2) <input type="radio"/> よくわからない(1)

高等部産業科生徒や先生からアドバイスをもらった点を「一番頑張れたこと」に挙げている生徒が多く見られた。学習ポートフォリオファイルにまとめていた同産業科生徒や先生のアドバイスのプリントを何度も見返し、自身の課題を明確にして活動に取り組んだ結果であり、学習ポートフォリオの有効性が示された。仕事として行う清掃への取り組み方を実際の社会体験から身をもって学ぶことができたといえるであろう。

また、同産業科生徒から学んだ内容については、掃除のスキル面はもちろんのこと、挨拶や返事、報告等の言葉遣いや人とのかかわり方等も多くあげており、先輩と

活動をともにし、それを見て真似るところから「働く心構え」「働く態度」等の理解が深まったと考えられる。

また、中学部・高等部で一緒に活動を行うことで、働く先輩の姿に憧れの気持ちを抱き、先輩のようになりたいと思う生徒がみられたことから、高等部産業科生徒に近い将来の手本となり、中学部生徒の目標となっていることがわかる。窓ふきの活動をする中で、寄宿舎指導員、施設職員、施設利用者等からの多くの感謝の言葉に接し、それがうれしかったと答えた生徒も多くみられた。その心情がやりがいや成就感、自己有用感を高めたことが伺われる。

また、「将来働きたいか」という質問に対しては、「はい」が7割を超えていた。授業前に「どうして働くのか」という質問をした際、「生活するため」や「お金を稼ぐため」という回答がほとんどであったが、授業後は「やりがい」や「人とのかかわり」等、「働く意義」について理解を深めた様子が見られる。「いいえ」と答えた生徒2名は、体格的に小さく体力面に課題のある生徒であり、今回の実践に対して疲れたとの思いが強く、働くのはつらいと感じたことが伺われる。

(3) 実践後の高等部産業科生徒のアンケートの結果と感想から

表12は授業実践後の高等部産業科2年生生徒3名の結果である。

アンケート（5件法※）の質問項目	生徒a	生徒b	生徒c
①後輩に教えることはむずかしかった。	4	4	5
②後輩に教えるときに言葉遣いや態度に気を付けた。	5	5	5
③教えることで自分自身の働く心構えや態度をふりかえることができた。	5	3	5
④自分が教えたことを後輩ができるようになったらうれしかった。	5	5	5
⑤また、中学部の後輩と一緒に活動がしたい。	5	3	5

表12 授業後の高等部生徒の感想

アンケート結果から、どの生徒も後輩に教えるにあたり、言葉遣いや態度に気を付けていたことがわかる。実際の活動場面でも、中学部生徒に対して丁寧な言葉でわかりやすく説明し、作業スキルの度合いや理解度に合わせて説明の仕方を工夫している様子が見られた。挨拶や返事、報告等も手本となるものであり、中学部生徒は先輩を見習い、実践することができた。これまでの授業や実習等で培ってきた仕事の知識やスキル、態度等の「働

く」ことに関しての力はもちろんのこと、言語能力や相手意識といったその他の多くの力を、今回の授業実践の中で発揮することができたことがわかる。また、すべての生徒が、教えることにより後輩がその力を高めていったことに、喜びを強く感じており、生徒の自己有用感を高めることができたと考える。

高等部産業科生徒が書いた感想（写真12）からもこの点が読み取れる。教えるという役割を果たす喜びを感じたことで自己肯定感も高められたといえるであろう。今回の中高連携の授業実践は、中学部だけでなく、高等部産業科生徒にとってもキャリア発達を高める上で効果があったと考える。

後輩たちに窓拭きの手順を教え、実祭後輩たちにさせたら、出来たよだけど、水が少し窓に何回か残ってたことがありました。自分的には、「やり方を教えることは大変だな」と思いました。また、後輩たちが窓拭きをして、きれいに出来たと言っていたのを見た時、「やったね」と思いうれしさに感じました。

人に仕事を教える難しさとか普段先生方が中高連携をいじれば解りやすく教えてくださっているのが良かったよと思います。また、人に物を教える楽しさなどもわかった！が気がします。

写真12 授業実践後の高等部産業科生徒の感想文

(4) 実践前後のアンケートの結果と聞き取り調査から（中学部学級担任）

学級担任への授業実践前後のアンケート結果を表13に示す。どの項目も向上していることが分かる。特に実践後に向上したのは質問項目④（職種の多様性）である。実践前に比べ、仕事が多様であることに気付いたことが読み取れる。また、質問項目①（役割の自覚と周囲との協力）も向上した。班やバディを組んでグループで活動することから、人と協力することの大切さや仕事に対する責任感が芽生えてきたことが伺える。質問項目②（働く理由）についても向上しており、社会で働く体験を通じて理解力が高まり、お金を得るということだけでなく、人の役に立ち、人から感謝され、働く喜びを実感した結果であると考えられる。

(5) 実践後の教師の感想から

授業実践全15時間を通し、小学部・中学部・高等部教員・寄宿舎指導員から述べ33名の参観者があり、キャリア教育や中高連携教育の関心の高さがうかがえた。授業後の感想には「『後輩に教える』『先輩から学ぶ』ことの有効性」「体験による学びの有効性」についての

記述が多く、特にその8割以上の教職員が「来年度以降も継続的に行っていくとよいのではないか」という意見を記載していた。

表13 授業実践後の学級担任へのアンケート結果

アンケート（4件法※）の質問項目	実践前	実践後
①自分から役割や仕事を見つけたり、周りの人と協力したりしながら生活していますか。	2.55	3.45
②どうして働くか、わかりますか。	2.27	3.00
③いま学校で勉強していることが、将来大人になって役に立つと思いますか。	2.82	3.09
④いろいろな種類の仕事があることを知っていますか。	2.09	3.18
⑤学校を卒業したあとに、やりたい仕事はありますか。	2.82	3.18
⑥将来仕事をするために、いま何をがんばればよいかわかりますか。	2.36	3.00
⑦自分の好きなことや得意なことがわかりますか。	2.55	2.91
⑧学校を卒業した後の仕事は自分で決めたいですか。	3.18	3.45
⑨自分にあう仕事、あわない仕事わかりますか。	2.27	2.82
⑩自分の将来目標に向けて、生活や勉強に一生懸命取り組んでいますか。	2.55	2.55
⑪毎日振り返りをして、生活や勉強の仕方をよくしようとしていますか。	1.55	2.00

※4：はい 3：まあまあ 2：あまり 1：いいえ

生徒のキャリア発達を促すという面では、一定の効果があつたと捉えることができるであろう。

従来から行っている指導・支援であっても、将来の姿を見据えようとする視点があるかないかで、生徒のキャリア発達には大きな違いが生じられると思われる。そのためにも、中学部教員が高等部卒業後の生徒の生活の実際を知ることは重要である。

作業学習については、中学部・高等部で系統性を図るため、互いに授業公開・相互参観や情報交換等の機会を設定することも必要であると考えられる。そのような取組を行うことにより、高等部の指導内容や支援方法を中学部の作業学習に取り入れることができ、生徒の将来を見据えた系統的な指導・支援が可能となる。また、中学部の作業学習を指導する教諭が、より良い社会生活のために身につけさせる必要のある内容を共通理解し、作業種が違っても一貫した指導・支援にあたるような仕組みを

教育課程の中に組み込むことも必要であると考えられる。

卒業後の社会生活を見通して、「基本行動」の定着だけでなく、働く意欲や社会生活に関する知識や技能を育てるために、小学部・中学部・高等部の系統的・継続的な指導・支援は不可欠である。各学部にキャリア教育の担当者を配置し、学部相互の連携を強めていくことも今後必要となってくると考える。

6 総合的考察

本研究では、本校中学部のキャリア教育や進路指導の在り方を検討するために、中学部におけるキャリア教育の授業実践を行った。

授業実践では、中高連携による社会体験活動を通して、生徒の自己有用感や自己肯定感が育ち、働く意欲や働く態度が高まるとともに、働く意義についても理解が深まることが示された。具体的には以下の2点である。

1点目は、中高連携による体験活動は、中学部生徒のみでなく高等部産業科生徒にも、また、生徒のみでなく教員にとっても大きな意義があるということである。中学部の生徒は、先輩への憧れにより、近い将来の自分の姿をイメージし、卒業後の夢や希望をもてるだけでなく、高等部への滑らかな進学も期待できる。また、高等部生徒は、中学部生徒に教えることで、自身の仕事に対するスキルや働く態度・心構えを振り返ることができ、さらに今まで学んできた言語能力やコミュニケーション能力を発揮できる。また、中学部教員は、高等部教員から、将来の姿を見据えた有効的な支援を示唆してもらえると、早い段階から「働く意義」や「意欲」、「心構え」を身に付けた生徒が進学してくることにより、その生徒を中核とした指導、また、スムーズな進路指導等が可能となる。

2点目は、地域での社会体験は、自己有用感・自己肯定感の育成に効果的であるということである。地域は、「人に愛されること、人にほめられること、人の役に立つこと、人から必要とされること」（大山、2009）を、身をもって感じるすることができる場であり、「働きたい・働き続けたい」という気持ちの基盤になる自己有用感や自己肯定感を高め、自尊感情を育てることができる場となりうる。

今回のキャリア教育の取組は一単元（15時間）であったが、今後は、全教育活動の中でキャリア教育の視点を生かした指導計画の作成や授業づくりを、計画的・系統的・組織的に取り組んでいく必要がある。その中で、やりがいや自己肯定感を体感し、「働きたい・働き続けたい」という意欲的な心情が育つ効果的な社会体験活動を計画的に取り込んでいくことも重要である。そこに地

域との協働は不可欠であり、そのノウハウを有する高等部教員からの情報収集が有効な手立てとなると考える。

実践では中高連携のみを取り上げたが、社会的自立と就労を見据えた場合、より早い段階からの指導・支援は欠くことのできないものであり、中・高のみでなく小・中の連携も検討していく必要がある。学部間の連携、地域との協働いずれについても、いわゆる「Win-Winの関係」、つまり「私にもあなたにも恩恵がある」という関係を築くことのできる取組が、継続的にキャリア教育を実践していくためのポイントだと考える。

今後も、授業実践を通し、中学部のキャリア教育・進路指導の在り方の研究を継続したい。

【引用文献】

- 上岡一世（2013）勤労観・職業観がアップする！キャリア教育を取り入れた特別支援教育の授業づくり，明治図書
- 大山泰弘（2009）働く幸せ，WAVE出版，P2-3.
- 中央教育審議会（2011）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）
- 名古屋恒彦（2011）知的障害教育におけるインクルーシブ教育の在り方—どの子にも最も適した教育を— 特別支援教育研究（東洋館出版社），650，P24.
- 森脇勤（2014）キャリア発達を促す地域協働型活動の創造，特別支援教育研究（東洋館出版社），687，P16.
- 岩本かおり（2015）キャリア教育の視点に立った知的障害のある生徒への支援，平成26年度山口大学特別支援教育長期研修報告書，P5.

【附記】

本実践研究は、平成27年度山口大学特別支援教育長期研修の期間中に実施した。本研究にご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。